

令和4年度

学校関係者評価報告書

「令和3年度・自己評価」に基づいた学校関係者評価委員会による評価

令和4年6月1日

学校法人昌賢学園 群馬社会福祉専門学校

# 目 次

1 学校の理念、教育目標 .....	1	4-14 資格・免許の取得率 .....	7
2 令和2年度の重点目標と達成計画 .....	1	4-15 卒業生の社会的評価 .....	7
3 評価項目別取組状況 .....	2	<b>基準5 学生支援</b> .....	<b>9</b>
<b>基準1 教育理念・目的・育成人材像</b> .....	<b>2</b>	5-16 就職等進路 .....	9
1-1 理念・目的・育成人材像 .....	2	5-17 中途退学への対応 .....	9
<b>基準2 学校運営</b> .....	<b>3</b>	5-18 学生相談 .....	9
2-2 運営方針 .....	3	5-19 学生生活 .....	9
2-3 事業計画 .....	3	5-20 保護者との連携 .....	10
2-4 運営組織 .....	3	5-21 卒業生・社会人 .....	10
2-5 人事・給与制度 .....	3	<b>基準6 教育環境</b> .....	<b>12</b>
2-6 意思決定システム .....	3	6-22 施設・設備等 .....	12
2-7 情報システム .....	4	6-23 学外実習、インターンシップ等 .....	12
<b>基準3 教育活動</b> .....	<b>5</b>	6-24 防災・安全管理 .....	12
3-8 目標の設定 .....	5	<b>基準7 学生の募集と受入れ</b> .....	<b>14</b>
3-9 教育方法・評価等 .....	5	7-25 学生募集活動 .....	14
3-10 成績評価・単位認定等 .....	5	7-26 入学選考 .....	14
3-11 資格・免許の取得の指導体制 .....	5	7-27 学納金 .....	14
3-12 教員・教員組織 .....	6	<b>基準8 財務</b> .....	<b>15</b>
<b>基準4 学修成果</b> .....	<b>7</b>	8-28 財務基盤 .....	15
4-13 就職率 .....	7	8-29 予算・収支計画 .....	15
		8-30 監査 .....	15
		8-31 財務情報の公開 .....	15

**基準 9 法令等の遵守..... 17**

9-32 関係法令、設置基準等の遵守.....17

9-33 個人情報保護.....17

9-34 学校評価.....17

9-35 教育情報の公開.....17

**基準 10 社会貢献・地域貢献..... 19**

10-36 社会貢献・地域貢献.....19

10-37 ボランティア活動.....19

## 学校関係者評価報告書について

### 1. はじめに

平成 19 年にあった学校教育法、及び学校教育法施行規則の改正により、自己評価の実施・公表が義務化され、学校関係者評価の実施・公表が努力義務とされるようになった。

本校においてもその重要性を理解し、組織的・継続的な教育活動等の改善と、生徒・卒業生、関係業界等との連携協力による特色ある専修学校づくりを目的として、自己評価を基にした学校関係者評価を行っている。

なお実施に際しては、平成 25 年に文部科学省生涯学習政策局において発表された「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考にしている。

### 2. 自己評価

教職員が、本校の理念・目標に照らして自らの教育活動その他の学校運営について振り返り、改善につなげることを目的として行っている。評価項目については、文部科学省によるガイドラインを参考に 1. 教育理念・目的・育成人材像、2. 学校運営、3. 教育活動、4. 学修成果、5. 学生支援、6. 教育環境、7. 学生の募集と受入れ、8. 財務、9. 法令等の遵守、10. 社会貢献・地域貢献の 10 項目を策定している。

### 3. 学校関係者評価

本校で行った自己評価について再度の検討を行うことで客観性と透明性を保ち、学校運営の更なる改善を図ることを目的とする。生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・関係団体、中学校・高等学校等、保護者・地域住民、所轄庁等の学校関係者などを、学校自らが選任し、構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行うものである。

評価の際には、1. 自己評価の結果の内容は適切か、2. 自己評価結果を踏まえた今後の改善策は適切か、3. 学校の重点目標や評価項目等は適切か、をポイントとした。

### 4. 学校関係者評価委員 5 名について

以下の 5 名を外部評価委員として、学校関係者評価をお願いした。

- ・委員長 社会福祉法人理事長
- ・委員 医療系大学学部長、元高等学校長

- ・委員 在学生保護者
- ・委員 在学生保護者
- ・委員 群馬社会福祉専門学校卒業生、社会福祉施設職員

#### 5. 評価期間

令和3年4月1日～令和4年3月31日

#### 6. 学校関係者評価委員会実施日時

実施日：令和4年5月31日（火）

場 所：群馬社会福専門学校 2階合同教室

#### <参考>

文部科学省生涯学習制作局（平成25年3月） 専修学校における学校評価ガイドライン

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2016/11/15/1348103\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2016/11/15/1348103_1.pdf)

# 1 学校の理念、教育目標

## 教育理念と教育目標

本校では、孔子の「仁」とそれを展開した「五倫」、「五常」を踏まえた「礼」の実践を掲げている。これらを統合した「仁愛」の精神を教育の理念とし、人格陶冶とその発揚とした知行合一の心身教育および、新しい時代を担う有為の人材の育成に努める。また、理想とする福祉社会を希求し、探究心を持って積極的に取り組むことができる人材育成を目指す。そのためには、在学中に自身の課題・目標を捉え、専門的な知識・技術の習得が必要であることから、「知行合一」の考え方を基本として、以下の教育目標を定める。

本校は心から人類を愛し、豊かな人間性と幅広い学識経験を有した人材を養成し、乳幼児から高齢者に至るまで、あらゆる福祉の向上に貢献する人材の育成を目的とする。「介護を学んだ保育士・幼稚園教諭」「保育・幼児教育を学んだ介護福祉士」として生涯に亘り幅広く活躍できるよう教育を行う。乳幼児と高齢者が同一施設で過ごす共生複合社会など、来るべき近未来の福祉社会を創造するスペシャリストの育成を目指す。

# 2 令和3年度の重点目標と達成計画

## 令和3年度重点目標と達成計画に関する評価

昨年から引き続き新型コロナウイルス感染症の予防に重点的に取り組み、安全な学校生活と校外実習の保障について検討を要する年となった。オンライン化の推進や新しい生活様式は、1年を経て教職員や学生に一定程度浸透したといえるが、一方で、実技科目や校外実習などで学生の習熟度について心配する声も、教職員から聞かれるようになった。以上を踏まえ、目標を以下のように設定し計画を立てた。

<目標>

1. 対面授業とオンラインによる遠隔授業によるハイブリッド化の推進
2. 新しい生活様式による学校生活と校外学習の両立化

<昨年度の評価と計画>

1. 昨年から段階的に取り入れた Google meet を使用した遠隔授業は1年間を通して教職員や学生にも十分に浸透したといえる。学生の習熟度と群馬県内外の新型コロナウイルス感染症警戒レベルを慎重に検討し、対面授業を基本に遠隔授業を柔軟に取り入れていくこととする。
2. 手指消毒用のアルコールとペーパータオルの設置や、演習科目でのソーシャルディスタンスの確保、1日に3度の検温と行動履歴の記録などの新しい生活様式に移行することができ、昨年度の目標は達成することができた。今後は予防的行動を途切らせることなく県の警戒レベルに細心の注意を払いつつ、本校の特色であるボランティアや校外実習の再開について、社会情勢を注視しながら慎重に検討していく。

最終更新日付

令和4年3月31日

記載責任者

橋本 祐

### 3 評価項目別取組状況

#### 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

##### 1-1 理念・目的・育成人材像

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	4 3 2 1
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4 3 2 1
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4 3 2 1
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4 3 2 1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策 (以下の番号は先項目と対応しています)
<p>1. 地域に貢献する福祉のスペシャリストを養成するとの理念は、教職員、学生間に強く理解浸透している。また、本校が先進的に取り組む、幼児と高齢者が共生する複合施設での支援の意義を、広く伝えている。</p> <p>2. 令和3年度はコロナ禍による影響を考慮し、学習成果発表会は無観客としたが、You Tubeの限定サイトでライブ配信を行った。視聴した新入生からは学校や先輩たち雰囲気を知ることができたと好評であった。</p>	<p>1. 保育士・幼稚園教諭二種免許・介護福祉士の3資格取得により、自分自身の将来の可能性が上げられることを再認識できるような実利的・実践的な授業や取り組みを増やしていくことが必要である。福祉保育学科の学生が、高齢者福祉における実践的な取り組みに触れることができるよう、慎重に社会情勢を見極めつつ、校外学習の機会を検討したい。</p> <p>2. 学生たちの発表動画を、今後のオープンキャンパスでも使用することで学生の様子とともに、本校の特色である保育と介護を学べる利点について、アピールしていきたい。</p> <p>なお、今年度は、保育実習Ⅰ（保育）の実習が校内実習となり、保育実習Ⅰ（施設）も実習中にまん延防止等重点措置の対象地域となったことから、「実習に行けた学生」と「行けなかった学生」ができてしまった。両者ともに校内実習による補填を行ったが、社会情勢を鑑み、計画的に校内実習と外部施設での実習を組み合わせる必要がある。</p>

最終更新日付	令和4年3月31日	記載責任者	橋本 祐
--------	-----------	-------	------

## 基準 2 学校運営

### 2-2 運営方針

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	4	3	2	1

### 2-3 事業計画

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	4	3	2	1

### 2-4 運営組織

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	3	2	1
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	4	3	2	1

### 2-5 人事・給与制度

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	3	2	1
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	4	3	2	1
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	4	3	2	1

### 2-6 意思決定システム

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4	3	2	1



## 2-7 情報システム

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	4 3 2 1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策 (以下の番号は先項目と対応しています)
<p>1. 学習面では入学、学習、卒業までのポリシーを学校案内等に明記し実行している。財務面については、法人として公表をしている。</p> <p>2. 令和3年度は、教職員と学生ともに遠隔授業におけるスキルや準備が浸透し、特に大きな問題もなくスムーズに遠隔授業に移行することができた。</p> <p>3. 介護福祉専攻科について次年度をもって休止とする決定が一旦なされたが、卒業生有志から継続を望む声が上がったことから、少なくとも令和6年度介護福祉専攻科入学(令和4年度福祉保育学科入学)の新入生までは介護福祉士専攻科で学べることとなった。</p>	<p>3.1 本校の特色である保育を学んだ学生が介護福祉専攻科へ進学し、介護も学べる利点を今後はべつの形で継続していく必要がある。</p> <p>3.2 介護福祉士専攻科の一時募集休止に関しては、教授会、理事会を経て決定された事項であるが、同窓会の意見を汲む必要があった。</p>

最終更新日付	令和4年3月31日	記載責任者	橋本 祐
--------	-----------	-------	------

## 基準 3 教育活動

### 3-8 目標の設定

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	3	2	1
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4	3	2	1

### 3-9 教育方法・評価等

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	3	2	1
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	4	3	2	1
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	4	3	2	1
3-9-4 授業評価を実施しているか	4	3	2	1

### 3-10 成績評価・単位認定等

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	3	2	1
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4	3	2	1

### 3-11 資格・免許の取得の指導体制

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4	3	2	1
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	4	3	2	1

### 3-12 教員・教員組織

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	4 3 2 1
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	4 3 2 1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策 (以下の番号は先項目と対応しています)
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護福祉士国家試験対策においては、合格基準点（78 点以上）を大きく上回る好結果（平均 92.7 点）を得ている（基準 4 詳細）。</li> <li>2. 教育課程では、高齢者分野・障害者分野・子ども分野を専門とする教員から意見を聴き編成している。</li> <li>3. 長引く少子化により年々出願者が減少し、一定レベルの学力での選考が困難になり、個人差が大きくなっている。授業態度・提出物・生活リズムなどあらゆる面で安定感のある学生とそうでない学生の差がある。</li> <li>4. 代替実習のコンテンツとして、福祉型障害児入所施設や障害者支援施設の施設長より zoom を使って講義をいただくことができた。例えば、夜間に避難訓練を行う取り組みや、モンテッソーリ教育の活用など、授業だけでは分からなかった現場の様子が分かったと学生に好評であった。今後も施設見学と並行して外部講師によるオンライン講義を行うことで、本校の特色である子どもから高齢者に至るまで対応できる総合的な人材育成の魅力を発信していけるよう継続していきたい。</li> <li>5. 教員研修としては、年に 1 度大学の研修会に参加し、また各教員の専門性に合わせて、各々の職能団体で実施している研修に参加している。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 安定感に欠ける学生に対しても、支援的な見方も含め、学習できる環境を整えていくよう、保護者、非常勤講師も含めた綿密な取り組みを今後も行っていく。</li> </ol>

最終更新日付	令和 4 年 3 月 31 日	記載責任者	上田勝己
--------	-----------------	-------	------

# 基準 4 学修成果

4-13 就職率

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	3	2	1

4-14 資格・免許の取得率

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	4	3	2	1

4-15 卒業生の社会的評価

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	4	3	2	1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策 (以下の番号は先項目と対応しています)
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 就職先との適性と踏まえつつ、学生の自己実現を促せるよう就職支援をしている。就職を希望する学生は100%就職をすることができている。</li> <li>2. 介護福祉士資格取得に向けての特別講義を行っており、令和元年度は90%、また令和2年度は91%の合格率であった。</li> <li>3. 福祉保育学科の学生は、小田原短期大学と提携しており、幼稚園教諭二種免許状の取得を目指している。現在のところ希望者全員が免許を取得できている。</li> <li>4. 勤務年数の長い卒業生は、介護福祉士会や県で行われる実習指導者講習会や各研修講師の資格、認定介護福祉士等の取得など積極的にスキルアップ、自己研鑽に励んでいる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 介護福祉士国家試験の合格に向けては、日々のカリキュラムの工夫と5回の模擬試験の実施、朝と放課後の補習講義を実施し、結果の推移を軸に検討を加えていく。</li> </ol>

最終更新日付	令和4年3月31日	記載責任者	上田 勝己
--------	-----------	-------	-------

## 基準 5 学生支援

### 5-16 就職等進路

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	3	2	1

### 5-17 中途退学への対応

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
5-17-1 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1

### 5-18 学生相談

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4	3	2	1
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	在籍者なし			

### 5-19 学生生活

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	3	2	1
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4	3	2	1
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	4	3	2	1
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	4	3	2	1

## 5-20 保護者との連携

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4	3	2	1

## 5-21 卒業生・社会人

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	4	3	2	1
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	4	3	2	1
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	4	3	2	1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全学年担任制とし、学生に対するきめ細かい指導を実践している。しかし、学生の育ちや家庭環境等が年々複雑化している現状にあり、本人の抱える課題が退学や休学につながるケースも散見され。</li> <li>2. 就職支援に関しては、キャリアセンターにおいて、学生に必要な情報が提供できるよう求人票閲覧体制を整えている。また、就職に向けての指導と支援を計画的に実施し、履歴書の書き方、試験対策、模擬面接演習等、学生のニーズに応じた指導を実践している。コロナ禍での就職活動となり、施設見学の日程調整等を難しく感じる学生がいた。実習が代替となり、現場に入っの実習経験の不足から、就職に対して慎重になりすぎる傾向が見られた。</li> <li>3. 学生の健康管理の面では、保健室の設置とともに、看護師の資格を有する教員を配置し、常時対応ができる体制を整えている。毎年4月には全学年一斉に健康診断を行い健康管理と指導に勤めている。</li> <li>4. コロナ禍を鑑み、毎日3度の検温、黙食の勧め、外出自粛の指導などを行っている。在宅学習中の検温や行動履歴の記録に関しては、登校が可能になった時に確認を行うこととしている。またボランティアに関しては昨年度に引き続き自粛となった。ただし、オープンキャンパスなどの校内でのボラ参加は継続をしている。</li> <li>5. 経済的な不安を抱える学生も多いため、奨学金等の案内を行い家庭での負担軽減に努めている。</li> <li>6. 卒業後の支援体制としては、各種スキルアップ講習を開講している。キャリアセンターが卒業後の窓口となり、就職後の相談や就（転）職への継続的な支援とともにスキルアップ講習の受講を薦め、専門職としての資質向上に寄与している。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生からの相談や学生自身の課題に対しては、クラス担任だけの対応ではなく、キャリアカウンセラーをはじめとする校内の関係教職員が学生の現状を把握し、情報の共有を図りながら様々なアプローチを行っていく必要がある。本人の進路変更や学生自身のやりたいことの尊重などの聞き取りも十分行い本人の意思決定を図っていく。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1.1 授業の内容によっては外部講師の活用も視野に入れ、学生にとって有益な情報の提供に至るよう地域のマンパワーの有効活用を工夫していく。</li> <li>2. 多様な学生のニーズに応えていくために、発達障害者支援センターや心療内科など外部の相談機関や医療機関につなげていく。また、福祉的就労も含めた情報提供を行っていく。ただし、社会状況の変化に伴い、発達支援センターの受け入れ態勢が整わない場合や、学生自身の必要性が薄れるなど状況の変化に対応していくためにも、個別の聞き取りのきめ細やかな対応をしていく。</li> </ol> </li> <li>2.2 合同就職説明会の参加や求人サイト等の利用など積極的な活動のサポートを勧めていく。</li> <li>3. 在宅学習前や連休前には、学級担任から、検温と行動履歴について確認を取り、習慣化に努めるよう声掛けを行う。</li> <li>4. ボランティア活動の推進は、本校の特色であり、活動を通して自己の向上を目指すだけでなく、社会の一員としての自己を意識していける貴重な機会である。今後の社会情勢を注視しながら、慎重に再開を検討していきたい。</li> </ol>



## 基準 6 教育環境

### 6-22 施設・設備等

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	3	2	1

### 6-23 学外実習、インターンシップ等

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	3	2	1
(課外活動自粛のため評定不可)				

### 6-24 防災・安全管理

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4	3	2	1
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4	3	2	1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策 (以下の番号は先項目と対応しています)
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 校内で管理されているパソコンは一人一台使用可能であり、プリンターなど自由に使用できる環境にある。</li> <li>2. 施設利用について全学生が利用しやすいように、各教員が細やかに確認・整備等を行っている。掃除備品なども随時補充をおこない、活用できるように手配している。各界男女洋式トイレにウオシュレットの設置が完了した。</li> <li>3. 在宅学習に向けてパソコンやピアノのキーボードの貸出しを行っている。</li> <li>4. 学外実習にあたっては、保育・介護を分けずに連携をはかり、指導教員を中心として教職員全体で指導を行っている。</li> <li>5. 例年であれば本校1年生を対象とし、東京ディズニーリゾートコミュニケーションスキル研修を実施してきたが、現在は受入れ中止となっている。</li> <li>6. 避難訓練を年に数回実施し、教員や学生と再度確認を行っている。避難訓練の担当箇所等も、配置を毎回変更し備えている。</li> <li>7. 群馬医療福祉大学附属認定こども園鈴蘭幼稚園が敷地内にあり、避難訓練を毎回同時に実施している。保育を志す学生にとっては、実際に自身も避難訓練を行いつつ、幼稚園の避難訓練の様子を直接見学もできることにより視野が広がり、学生の学びの向上に期待できる。</li> <li>8. 各教室にはアルコール消毒液とペーパータオル、講師用のパーテーション、さらに清掃時用に使い捨てビニール手袋を設置してある。また教室の座席は、ゆとりのあるものにし、ソーシャルディスタンスを保てるよう工夫している。各階トイレにも消毒液とペーパータオルを常備し、玄関にもアルコール消毒液を設置、さらに来校者には必ず非接触型体温計での検温にご協力いただき来校者記録の記入を行っている。</li> <li>9. 授業終了後は、通常の清掃に加えて、机や床、使用した道具にアルコールでの清拭を毎回行っている。特に、幼稚園との共有スペースとなる講堂においても同様に行っている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 施設の老朽化が進んでいるので、劣化が進んでいるところは補修を行全体の点検を怠らないようにする必要がある。また、図書室において、幼児教育や介護に関する書籍をはじめ、周辺環境におけるほんの増やしていく。</li> <li>6. 東京ディズニーリゾートコミュニケーションスキル研修は、令和3年度以降、大学・短大・専門学校向けプログラムを終了しており、今後はこれに代わる研修の検討をしていく。</li> </ol>

最終更新日付

令和4年3月31日

記載責任者

佐藤 由樹路

## 基準 7 学生の募集と受入れ

### 7-25 学生募集活動

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4	3	2	1
7-25-2 学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	4	3	2	1

### 7-26 入学選考

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	3	2	1
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	3	2	1

### 7-27 学納金

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	3	2	1
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	4	3	2	1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策 (以下の番号は先項目と対応しています)
<ol style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの影響によりガイダンスの中止が相次いだため、高校生と直に接する機会が例年より減ってしまった。</li> <li>入学選考に関しては、面接を重視し、保育・幼児教育・介護福祉従事者としての資質を見極めるために面接している。可否判定方法に関しては、面接結果を得点化し、適正かつ公平な手法により選考を行っている。</li> <li>オープンキャンパスは感染対策を徹底し対面型（一部オンラインで開催）で開催することができた。また、オープンキャンパスに参加できない参加者に対しては、個別相談を ZOOM で行い、一定の効果を上げることができた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>令和 4 年 4 月から福祉保育学科に入学する新入生より介護福祉専攻科募集休止に伴い、介護福祉士の受験資格が取得できなくなるため、新年度より変更点及び入学するメリットなどオープンキャンパスやガイダンス、SNS を使い積極的に情報発信を広げ学生募集の状況改善に努める。</li> <li>少子化の影響により、高校生の数も減少という状況である。専門学校希望者の減少や、大学進学傾向が強まり、オープンキャンパスや進学ガイダンス参加者数が年々微減している。今後は、高校生だけではなく、大学既卒や第二新卒など若年層をターゲットにした志願者を幅広く掘り起こす必要がある。</li> </ol>

最終更新日付	令和 4 年 3 月 31 日	記載責任者	榎田 裕史
--------	-----------------	-------	-------

## 基準 8 財 務

### 8-28 財務基盤

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	3	2	1
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	3	2	1

### 8-29 予算・収支計画

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	3	2	1
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4	3	2	1

### 8-30 監査

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	3	2	1

### 8-31 財務情報の公開

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	3	2	1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策 (以下の番号は先項目と対応しています)
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生生徒等納付金収入増額の手段を年々実施しているが減額の傾向が続いている。</li> <li>2. 抜本的な将来計画が必要とされる中で今年度より医療技術学部が開校した。</li> <li>3. 学生環境整備としての施設設備整備は新学部を含め今後も外部借入金に依存することなく自己資金による資金基盤の安定化を図っている。</li> <li>4. 学生への新型コロナウイルス感染症対策として学生支援を多角的に継続している。</li> <li>5. 財務的には新学部増設により繰越収支差額は大きくマイナスとなっている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 学習環境整備の改善計画と多種にわたる災害に应付する整備対策とともに新型コロナウイルス感染症対策も併せて環境整備を継続する。</li> <li>5. 学生生徒等納付金収入減、人件費率の増加、学生支援対策等に伴う経常収支差額比率が今年度も低下しているが、新学部が開校され1年目の経費が反映されたことによるものであり、4年次の完成年度には改善される見込みである。経営的には今後も多角的な運営に十分に考慮し努力を続けていかなければならない。</li> </ol>

最終更新日付	令和年3月31日	記載責任者	伊藤 芳雄
--------	----------	-------	-------

## 基準 9 法令等の遵守

### 9-32 関係法令、設置基準等の遵守

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	3	2	1

### 9-33 個人情報保護

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1、
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	3	2	1

### 9-34 学校評価

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1、
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	3	2	1
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	4	3	2	1
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4	3	2	1
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	4	3	2	1

### 9-35 教育情報の公開

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	3	2	1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策 (以下の番号は先項目と対応しています)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係法令や設置基準に基づいた学校運営、各種規則・規定の整備を行っている。また、セクシャルハラスメン等の対策については法人として取り組んでおり、対応マニュアルを整備し運用をしている。</li> <li>2. 学校法人昌賢学園としての財務状況等については、平成 22 年度以降、群馬医療福祉大学 HP にて公開をしている。</li> </ol>				
最終更新日付		令和 4 年 3 月 31 日	記載責任者	鈴木 国泰

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

### 10-36 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 3 2 1
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	4 3 2 1

### 10-37 ボランティア活動

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4 3 2 1 (課外活動は自粛としたため評定不可)

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策 (以下の番号は先項目と対応しています)
1. 幼稚園とも連携してペットボトルのキャップを回収しており、年に2度群馬県社会福祉協議会への寄付を継続している。 2. 社会人のキャリアアップ、再就職のためには、県からの委託により福祉分野の人材育成のための公共職業訓練を実施している。 3. 国の政策として保育分野では留学生を受け入れていないという現状がある。介護分野では受け入れが認められているが、本校の介護福祉専攻科は、保育士養成施設を卒業した保育士資格取得者が入学できるため、留学生の受け入れは困難である。 4. コロナ禍の影響を鑑み、ボランティア活動は基本的に自粛とした。	3. 留学生の受け入れに関しては情報収集を継続し、必要があれば対応していく。 4. 学生生徒等納付金収入減、人件費率の増加、学生支援対策等に伴う経常収支差額比率が今年度も低下しているが、新学部が開校され1年目の経費が反映されたことによるものであり、4年次の完成年度には改善される見込みである。経営的には今後も多角的な運営に十分に考慮し努力を続けていかなければならない。

最終更新日付	令和4年3月31日	記載責任者	上田 勝己
--------	-----------	-------	-------



## 4 令和3年度総括と令和4年度の改善目標

### 令和3年度重点目標と達成計画に関する評価

学園運営の根幹である「仁」の理念は教職員、学生に浸透し、学修成果は資格取得率の高さや完全就職に現れている。一方で、今後の課題として、本校の魅力を発信し、学生募集に力を注いでいく必要性が示された。これまで見てきた各基準での評価をもとに、「令和4年度の改善目標」を示し自己評価報告を終える。

#### ○基準1 教育理念・目標 ・ ○基準2 学校運営

- ①コロナ禍が収束せず ICT を使った遠隔講義が増えたが、教員も学生も特に問題なく移行することができた。
- ②保育実習Ⅰ（保育）が校内での代替実習となり、保育実習Ⅰ（施設）も「実習に行けた学生」と「行けなかった学生」ができてしまった。両者ともに校内実習による補填を行っているが、今後は計画的に校内と校外の実習を組み合わせる必要がある。保育や介護では五感を使った学習を行うため、遠隔授業だけでは難しい側面がある。
- ③令和6年度に介護福祉専攻科入学（令和4年度福祉保育学科入学）の学生まで介護を学ぶことが可能だが、その後はべつの形で保育と介護の学びを継続させていく必要がある。具体的には介護実務者の研修内容を保育のカリキュラムの中で学べるようにしていきたい。

#### ○基準3 教育活動 ・ ○基準4 学修成果 ・ ○基準5 学生支援

- ①安定感に欠ける学生に対しても、支援的な見方も含め、学習できる環境を整えていくよう、保護者、非常勤講師も含めた取り組みができた。担任のみが相談業務で負担を感じるのではなく、高校とも連携を図っていく。
- ②介護福祉士国家試験の合格に向けては、日々のカリキュラムの工夫と5回の模擬試験の実施、朝と放課後の補習講義を実施し、結果の推移を軸に検討を加えていく。
- ③学生からの相談や学生自身の課題に対しては、支援者間で情報共有を図りながら、本人の進路変更ややりたいことを尊重した。また、授業の内容によっては外部講師の活用も視野に入れ、学生にとって有益な情報の提供に至るよう地域のマンパワーの有効活用を工夫した。
- ④多様な学生のニーズに応えていくために、発達障害者支援センターや心療内科など外部の相談機関や医療機関につなげることがあった。また、福祉的就労も含めた情報提供も行った。就職活動に関しては、合同就職説明会の参加や求人サイト等の利用など積極的にサポートをした。
- ⑤コロナ禍の継続を受けて、在宅学習前や連休前には、学級担任から、検温と行動履歴について確認を取り、習慣化に努めるよう声掛けを行った。ボランティア活動については、今後の社会情勢を注視しながら、慎重に再開を検討していきたい。ボランティアを希望する学生は外部ではなく、学校内のオープンキャンパスの手伝いなどをしてもらい、良い経験になっている。今後は慎重にボランティアの再開を検討していきたい。

#### ○基準6 教育環境

- ①トイレのウォシュレット完備が男女ともに完了した。校舎の老朽化が進んでいるところは、補修を行い点検を怠らないようにした。
- ②東京ディズニースキル研修に代わる研修を検討していく必要がある。
- ③アルコールを使った清掃を毎日行い、これまで2年間のコロナ禍で5例、外部からの感染があったのみで、本校でのクラスターは出ていない。

## 令和3年度重点目標と達成計画に関する評価

### ○基準7 学生の募集と受け入れ ・ 基準8 財政

- ①令和4年4月から福祉保育学科に入学する新入生より介護福祉専攻科募集休止に伴い、介護福祉士の受験資格が取得できなくなるため、新年度より変更点及び入学するメリットなどオープンキャンパスやガイダンス、SNS を使い積極的に情報発信を広げ学生募集の状況改善に努める。
- ②少子化の影響により、高校生の数も減少という状況である。専門学校希望者の減少や、大学進学傾向が強まり、オープンキャンパスや進学ガイダンス参加者数が年々微減している。今後は、高校生だけではなく、大学既卒や第二新卒、またスポーツ団体など幅広くニーズを掘り起こしていきたい。
- ③学生生徒等納付金収入減、人件費率の増加、学生支援対策等に伴う経常収支差額比率が今年度も低下している。経営的には今後も多角的な運営に十分に考慮し努力を続けていかなければならない。

### ○基準9 法令等の遵守 ・ 基準10 社会貢献・地域貢献

- ①学生生徒等納付金収入減、人件費率の増加、学生支援対策等に伴う経常収支差額比率が今年度も低下しているが、新学部が開校され1年目の経費が反映されたことによるものであり、4年次の完成年度には改善される見込みである。経営的には今後も多角的な運営に十分に考慮し努力を続けていかなければならない。
- ②SDGs と結びつけた学習につなげいく。

## 5 学校関係者評価委員からの意見（令和4年5月31日学校関係者評価委員会にて）

1. 介護にある負のイメージ（特に給与面）は、必ずしも事実ではないので、学生には前向きに介護職への就職を考えられるよう指導をお願いしたい。
2. 法人のなかでも運営の難しい部門があるとのことだったが、続けてもらいたいと思う。
3. 社会で役立つ人材を育成するという教育理念が群馬社会福祉専門学校の強みである。先を見据えた教育である。
4. あいさつが良くでき、素直で明るい人材は、施設利用者に喜ばれる。
5. 卒業生の姿を手本にしようとする気持ちが在校生にもある。
6. 校内で行う代替実習の際、法人内の幼稚園を活用できると良かった。
7. 現実を見ながらシミュレーションをしていくことが大事である。
8. 他校と同じではなく、独自性を出していけると良い。